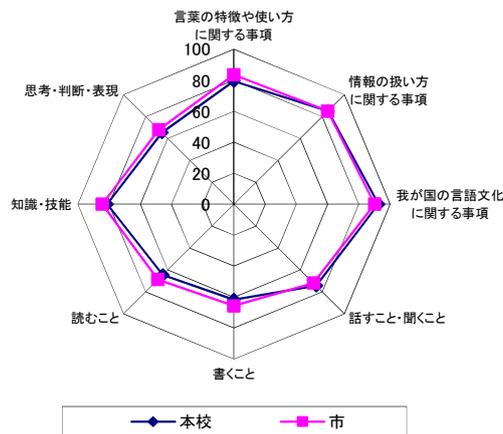


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.4	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	85.0	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	92.5	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	74.5	72.1	67.8
	書くこと	61.7	65.5	51.8
観点別	読むこと	64.5	68.9	57.8
	知識・技能	81.3	84.4	80.5
	思考・判断・表現	65.4	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

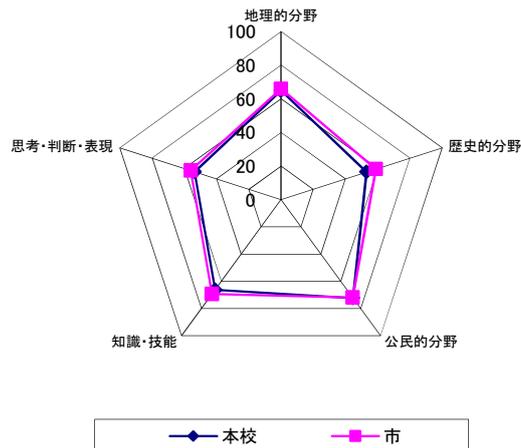
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○本校の正答率は観点別の「知識・技能」で参考値を0.8ポイント上回っている。</p> <p>○補助教材を使つての漢字の書き取り学習が結果に結びついたと考えられる。漢字の読みでは「倒れる」「渋い」が共に100%の正答率、書きでは「歌詞」で参考値を4.9ポイント上回っている。また故事成語は授業で「論語」を学習した直後であったため正答率が参考値を9ポイント上回った。</p> <p>●「浴びる」の書きの正答率が低かった。無解答が全体の2割いた。</p>	<p>・意味の分からない言葉や書けない漢字に対して無回答の反応をした生徒が全体の3割程度いた。間違ふことを恐れて最初から手を付けられない様子が見られる。言葉の知識を増やすと同時に間違いを恐れず解答する力も育成したい。</p> <p>・漢字の読み・書きともに既習漢字がうろ覚えで普段の生活で使いこなせていない傾向がある。授業の振り返りシートで日常的に既習漢字を使う機会を設けることで定着を図る。</p> <p>・言葉に親しむ習慣を身に付けさせるため、朝の読書の継続を学校全体で取り組みたい。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○本校の正答率は市とは同ポイントで、参考値を6.1ポイント上回っている。解答率も高かった。</p> <p>○特に「情報」の中身について「事例」と「効果」などのラベリングを正確にし、図解との関連性を理解できた生徒が多かった。これは授業で「利己」「利他」といった抽象的な内容を図解させたことも関連していると思われる。他者に理解させるときの適語や図の表し方の工夫を実体験したことが今回の問題の理解につながったと推察する。</p>	<p>・グラフや図式のある説明的文章になるべく触れさせる。他教科(理科・数学・社会・技術家庭科)の学習と関連させて、論理的に文章を読み表現する力を養う。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○本校の正答率は市を2.3ポイント、参考値を8.3ポイント上回っている。</p> <p>○直前に授業で学習した「論語」の内容だったので親しみやすかったようで正答率が高かった。</p>	<p>・歴史的仮名遣いや古語などの古典学習の基礎を折に触れ再確認し、古典を読む訓練を継続的にやっていく。</p> <p>・古典作品をより身近に感じられるように、文学史の学習を通して古典作品を数多く紹介する。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○本校の正答率は3項目のうち2項目が市、参考値を1.6～6.1ポイント上回っている。</p> <p>○特に記述式の解答であった「盆栽についての発表原稿」については、話の展開を予測し、なおかつ条件に従って原稿を書くという課題に正しく解答できていた。</p>	<p>・聞き取りの小テストを定期的に行うことで、正確にメモを取ったり、話を正確に聞き取る力を身に付けさせる。</p> <p>・豊かな表現方法に必要な語彙を増やしたり、相手に伝わりやすい効果的な話し方の工夫についても指導していく。</p>
書くこと	<p>○本校の正答率は全項目で参考値を12～17ポイント上回っている。</p> <p>●正答率を市と比較すると総じて低い。特に「自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している」について2.9ポイント低い。</p>	<p>・原稿用紙の使い方、示された型どおりに書く練習など基本的な事柄を丁寧に行った結果として、作文や小論文を書くことへの自信につながったと思われる。今後も継続したい。</p> <p>・試験全体の時間配分を考慮して記述式の解答ができるように訓練したい。</p>
読むこと	<p>○説明的文章、文学的文章のどちらでも無回答率は低かった。どちらの正答率も参考値を1.4～10.2ポイント上回っている。また説明的文章の「論理の展開の仕方を捉えている」は市の正答率を1.8ポイント上回った。</p> <p>●説明的文章、文学的文章のどちらでも市の正答率を下回るものが多かった。特に2つの解答を完答しなくてはいけない設問での誤答が多く見られた。</p>	<p>・説明的文章、文学的文章のどちらとも約7割の生徒は捉えることができていた。しかし、読み取り方を間違えたり、類似する言葉を解答してしまうなどの不注意がみられるので今後もこういった設問に慣れるように定期テスト等で出題したい。</p>

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	64.8	66.0	57.8
	歴史的分野	53.1	58.9	51.4
	公民的分野	72.4	72.0	72.2
観点別	知識・技能	66.3	69.3	62.9
	思考・判断・表現	53.6	56.0	49.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

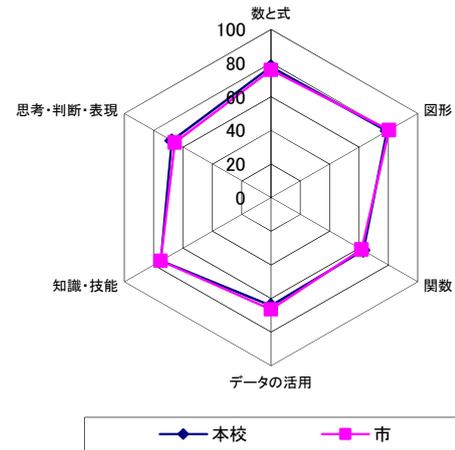
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○基礎的な用語や地図記号、統計資料の読み取りは概ね定着している。 ○資料(グラフ・地図)から必要な情報を探す力は比較的安定している。 ○日本地理に関する理解は世界地理よりも高い傾向が見られる。</p> <p>●複数資料を関連付けて考察する問題で正答率が下がる。 ●理由説明(なぜそうなるか)の記述が弱い。 ●世界の地域的特色について「知っている」レベルにとどまり、比較・関連付けが十分でない。</p>	<p>①「比較させる授業」を増やす 日本と海外、都市と農村などを必ずセットで扱う。Venn図や表を活用して共通点・相違点を書かせる。 ②資料活用トレーニングの定着化 毎時間「今日の1枚資料」演習(3分間)を行う。複数資料を組み合わせたミニ演習を継続実施する。 ③記述力強化 「なぜなら～だからである」型の説明練習をルーティン化させる。模範解答の構造分析を行う。</p>
歴史的分野	<p>○年代の流れや大きな時代区分の理解は概ね良好。 ○重要人物・基本事項の知識は一定水準に達している。 ○因果関係を問う選択問題では比較的安定した正答率。</p> <p>●出来事背景理解が浅く、「結果」はわかるが「原因」の説明が弱い。 ●近現代史の総合問題で正答率が下がる傾向。 ●資料(史料・写真・グラフ)を読み取って判断する力に課題。</p>	<p>①「原因→結果→影響」構造を徹底 黒板板書を必ず上記の三段構造にする。出来事ごとに「背景カード」を作らせる。 ②近現代の重点強化 明治以降は時代ごとの「テーマ学習」形式で授業を構成する。例:産業化・戦争・民主化など ③史料読み取りの習慣化 毎単元で1回は史料読解問題を扱う。選択ではなく記述で答えさせる場面を増やす。</p>
公民的分野	<p>○用語理解(憲法・国会・選挙など)は比較的安定。 ○基本的な制度の仕組みは理解できている。 ○時事問題への関心は見られる。</p> <p>●制度の「目的」や「意義」を説明する力が弱い。 ●経済分野(市場・財政・金融)で理解差が大きい。 ●自分の意見を論理的に述べる力が不十分。</p>	<p>①ディスカッション型授業の導入 1単元に1回ミニ討論を行う。YES/NO形式で必ず理由を書かせる。 ②経済分野の視覚化 フローチャートや図解で「お金の流れ」を示す。身近な例(スマホ・アルバイト・税金)を活用する。 ③記述問題の定着 「制度の目的を答えよ」形式を繰り返す。模範解答の型を示す(～を保障するため、～を実現するため)</p>

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.8	76.0	69.0
	図形	79.2	80.5	67.7
	関数	62.9	61.6	55.0
	データの活用	64.3	66.5	56.4
観点別	知識・技能	75.2	75.1	69.4
	思考・判断・表現	67.7	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

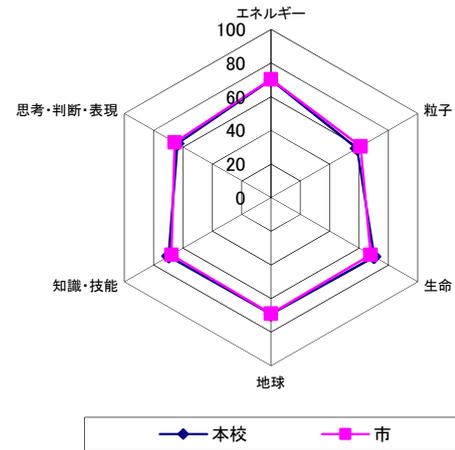
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○市の平均を1.8ポイント上回った。</p> <p>●式の展開と因数分解の問題2(2)の正答率が、市の平均を6.2ポイント下回っている。式を展開した後に、同類項をまとめる際に符号の間違いを生徒が多いことが予想される。</p>	<p>・計算に対して苦手意識をもっている生徒も多いため、基本・標準・発展といったレベルに合わせて課題を準備して、計算に向き合える時間を作るように指導していく。</p> <p>・複雑な計算を最後まで解ききれるよう、計算の工夫などを紹介していく。</p>
図形	<p>○証明の問題では、市の平均とほとんど変わらない正答率だった。</p> <p>●1学年時に学習した平面図形や空間図形の単元の問題で市の平均を下回っているものが多い。特に、図形の移動の問題14(2)の正答率が市の平均を5ポイント以上下回っている。空間認知に苦手意識のある生徒が多いことが予想される。</p>	<p>・図形の作図や、性質などの知識の定着が不十分であることが考えられる。既習事項の復習を多く取り入れることや、穴埋めの課題などを実施し、少しずつ知識を定着させるよう指導していく。</p> <p>・作図や図形の移動など計算を必要としない課題にも多く取り組ませる。</p>
関数	<p>○市の平均を1.3ポイント上回った。</p> <p>●xの2乗に比例する関数の問題9(3)の正答率が市の平均を3ポイント下回っている。関数の立式に関して値を代入する際に間違える生徒が多いことが予想される。</p>	<p>・関数に関して苦手意識を持っている生徒が多いため、式やグラフなど既習事項の復習や基礎基本の定着を目的とした加害に多く取り組ませ、定着できるよう指導していく。</p> <p>・利用の問題の解説などを丁寧に行い、問題の読解力がつくよう指導していく。</p>
データの活用	<p>○データの分布の傾向の問題17(2)の正答率が市の平均を1.3ポイント上回った。</p> <p>●データの分布の傾向の問題17(1)の正答率が市の平均を9.5ポイント下回った。四分位範囲や四分位数を求めることに苦戦する生徒が多いことが予想される。</p>	<p>・データから様々な情報を読み取ることはできる生徒が多いが、代表値などの知識が定着しておらず、回答できない場合が多いため、既習事項の復習を行い、知識が定着するよう指導していく。</p>

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	70.0	70.3	59.4
	粒子	58.7	61.1	56.4
	生命	70.3	67.9	62.7
	地球	69.3	69.1	65.6
観点別	知識・技能	69.7	67.9	63.8
	思考・判断・表現	63.9	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

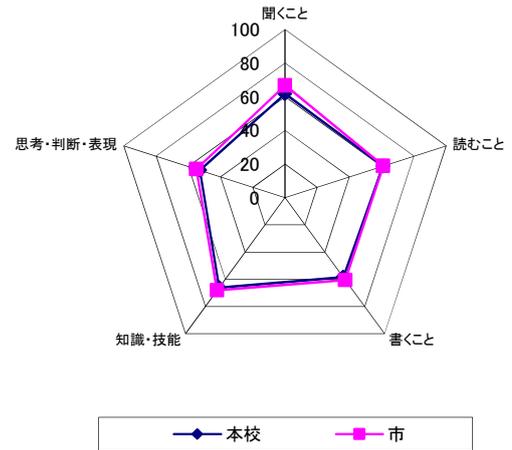
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○静電気に関する問題や位置エネルギーと運動エネルギーが移り変わる運動におけるおもりの速さについての問題では、市の平均を上回った。</p> <p>●本校の正答率は、市の平均より0.3ポイント下回った。思考力を要する帯電に関する問題では、市の平均を下回った。</p>	<p>・実験は意欲的に取り組んでいるが、なぜそのような事象が起こるのかという理由を考え、根拠に基づいて説明する力を身に付けさせる。</p> <p>・授業で扱う学習内容について、身近な現象に関連させるなどの工夫を凝らし、関心・意欲を高められるようにする。</p>
粒子	<p>○質量パーセント濃度に関する問題や中和に関する問題では、市の平均を上回った。</p> <p>●本校の正答率は、市の平均を2.4ポイント下回った。溶解度や化学変化によって物質の質量について問う問題では、市の平均を下回った。</p>	<p>・基本的な知識を定着させるために、デジタルドリルやワークを積極的に活用していく。</p> <p>・実験結果のグラフや表をもとに課題について科学的に思考する場面を充実させ、論理的に考える力を身に付けさせる。</p>
生命	<p>○本校の正答率は、市の平均より2.4ポイント上回った。さらに、大問の「動物の分類」と「植物のからだのつくりとはたらき」については、すべての問いにおいて、市の平均を上回った。</p> <p>●孫の代の遺伝子の組み合わせに関する問題のみ、市の平均を下回った。</p>	<p>・動物の分類や植物の体のつくりに関する内容についての基本的な知識の定着度は高いことから、学習に向かう前向きな姿勢を継続させる。</p> <p>・遺伝のモデル実験などを行い、遺伝子の伝わり方についてイメージを深めさせる。</p>
地球	<p>○本校の正答率は、市の平均を0.3ポイント上回った。さらに、地震に関する基本的内容について問う問題や等圧線に関する問題では、市の平均を上回った。</p> <p>●震源距離と震度の関係についての問題や低気圧と大気圧に関する問題では、市の平均を下回った。</p>	<p>・地震の広がり方や大気移動など、実際に見ることができない内容については、ICT教材やモデルを活用して視覚的に捉えさせる。</p> <p>・地震や天気への興味関心を高めさせるために、学習内容に関連する身近な現象を紹介したり、調べさせたりする。</p>

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	61.8	66.8	61.5
	読むこと	60.8	60.9	55.5
	書くこと	58.5	60.5	50.9
観点別	知識・技能	66.1	68.1	64.1
	思考・判断・表現	52.8	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○リスニングにおいて、参考値を全て上回っている。</p> <p>○大問4は本市の値を0.2ポイント上回った。日常的话题について、必要な情報を聞き取ることができている。</p> <p>●内容理解のリスニングに関しては、全て市平均、参考値を下回っている。物の位置や道案内のリスニングは10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・日常的话题について必要な情報を聞き取る力は概ね定着していると考えられる。今後は、聞き取った内容を要約したり、内容について自分の考えを述べたりする活動へと発展させたい。</p> <p>・位置関係を表す語句や指示表現の理解、音声情報を順序立てて処理する力に課題があると考えられる。今後は前置詞や方向表現の定着を図るとともに、地図や図を用いたリスニング活動を充実させ、音声を聞き取りながら必要な情報を整理する力の向上を目指したい。</p>
読むこと	<p>○必要な情報がどの部分にあるかを把握して、適切なグラフを選ぶ問題では、市の平均を5.4ポイント上回った。</p> <p>○代名詞が指す内容の理解では、市の平均を5.6ポイント上回った。</p> <p>●対話文を読み、適切なグラフを選ぶ問題では5.6ポイント下回った。</p> <p>●資料を読み取り、文脈に応じた英文を選ぶ問題では、市の平均を9.4ポイント下回った。</p>	<p>・本文中の情報を的確に見つけ出す力や文と文のつながりを捉える力は概ね定着していると考えられる。今後はこれらの強みを生かし、複数の情報を関連付けて判断する読解活動へと発展させ、総合的な読解力の向上を図りたい。</p> <p>・英文の内容と図表情報を結び付けて考える力や、文脈を踏まえて適切な表現を判断する力に課題があると考えられる。今後は、資料を活用した読解活動を日常的に取り入れ、根拠を明確にしながらか解答する指導を充実させたい。</p>
書くこと	<p>○英作文の項目については、3分の2の項目が市平均、参考値を上回った。英作文の練習を多く取り入れたことで、文を作ることへの苦手意識が低くなっていることが考えられる。</p> <p>○並べ替え英作文の項目では、make+(代)名詞+形容詞の文法で市平均を7.4ポイント上回った。</p> <p>●look+形容詞の文法では、約2ポイント下回っている。肯定文のインプットアウトプットを多くやったが、否定文で何を使うか判断できていない生徒が多くいることが考えられる。</p>	<p>・今後も継続して、自分の考えや実体験を含むつながりのある文を書く練習を取り入れていく。</p> <p>・look+形容詞の否定文において、一般動詞の文構造理解が十分でないことが課題として考えられる。今後は、肯定文だけでなく否定文・疑問文を含めた体系的な指導を行い、主語と動詞の関係を明確にしながらか文構造の定着を図りたい。また、変換練習や説明活動を通して理解の深化を目指したい。</p>

宇都宮市立国本中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルに基づく授業改善	生徒にとって「分かる授業」を展開するために、宇都宮モデルに基づき、めあての明示やペアワーク、グループワークなどの学習形態の工夫、授業の終末での学習内容の振り返りを全教科で実践している。	「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問では、肯定割合が1学年で84.4（市82.9、本校昨年度81.0）ポイント、2学年で68.1（市79.3、本校昨年度77.1）ポイント、3学年で77.6（市80.0、本校昨年度84.8）ポイントと、1学年では市平均と本校昨年度肯定割合いずれも上回り、2、3学年ともに、市平均と本校昨年度肯定割合を下回った。
学びに向かう力の育成と学力の向上	主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICTの効果的な活用の工夫を行った。また、定期テスト前の2週間、「家庭学習がんばりの記録」を利用し、家庭学習の時間を記入させることで、生徒自身の学習への取組状況を可視化し、個に応じた指導助言を行っている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の質問では、肯定割合が1学年で61.5（市62.6、本校昨年度69.0）ポイント、2学年で62.2（市61.7、本校昨年度61.9）ポイント、3学年で75.0（市68.5、本校昨年度67.0）ポイントと、1学年では市平均と本校昨年度肯定割合を下回ったものの、2、3学年ではいずれも市平均と本校昨年度肯定割合を上回った。 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」の質問では、肯定割合が1学年で69.7（市70.2、本校昨年度80.3）ポイント、2学年で64.4（市67.2、本校昨年度68.6）ポイント、3学年で76.7（市71.3、本校昨年度69.6）ポイントと、3学年では市平均と本校昨年度肯定割合を上回ったものが、1、2学年では市平均と本校昨年度肯定割合いずれも下回った。
家庭学習における学習内容の復習の習慣化に向けた指導の工夫	全学年で家庭学習の習慣化に向けた取組を行っている。また、復習するポイントを生徒が整理しやすいよう、各授業で、その日の学習内容の振り返りを行っている。	「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか（塾、家庭教師含む）」の質問では、平日「ほとんどしない」の割合は、1学年で4.1（市7.2、本校昨年度4.2）ポイント、2学年で9.6（市8.0、本校昨年度5.9）ポイント、3学年で2.6（市3.4、本校昨年度4.5）ポイントであった。2学年では課題が見られるが、前年に引き続き全体的に良好な結果となった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

ここ数年継続して、①教員の授業力の向上、②学びに向かう力の育成、③家庭学習の習慣化の3点について、具体的な取組を行ってきたが、「学校の授業がどの程度分かりますか。」の質問項目では、1学年で84.4（市82.9、本校昨年度81.0）ポイント、2学年で68.1（市79.3、本校昨年度77.1）ポイント、3学年で77.6（市80.0、本校昨年度84.8）ポイントと、1学年では市平均と本校昨年度肯定割合いずれも上回り、2、3学年ともに、市平均と本校昨年度肯定割合を下回っていることから、①～③の継続した取組と、日々の教材研究と各教科の授業改善に一層取り組んでいく。

「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか。」の質問項目において、平日の学習をほとんどしない生徒が1学年で4.1（市7.2、本校昨年度4.2）ポイント、2学年で9.6（市8.0、本校昨年度5.9）ポイント、3学年で2.6（市3.4、本校昨年度4.5）ポイントと、全体的に前年に引き続き良好な結果となった。ここ数年の取組から、生徒の学習に対する意識の改善が見られている。

「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の質問項目では、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒の割合は1学年で57.4（本校昨年度62.7）ポイント、2学年で69.7（本校昨年度57.6）ポイント、3学年で50.9（本校昨年度55.4）ポイントであった。2学年は前年度も62.7ポイントと高かったが、学年が上がり更に復習に取り組む生徒の割合が更に下がったことから、各教科担任・学級担任が連携して、復習の習慣づけに向けた工夫を行うとともに、引き続き新入生には「家庭学習を行う習慣」「家庭学習で復習をする習慣」をしっかりと身に付けさせていくことを校内で共通理解を図り、継続して指導していく。